



やまぐち
阿賀野市 山口遺跡 現地説明会資料

平成 25 年 10 月 26 日 (土)

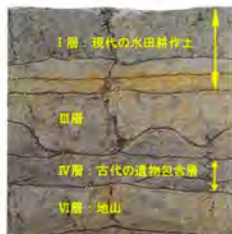
国土交通省 北陸地方整備局 新潟国道事務所
財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

1. はじめに

山口遺跡は、一般国道 49 号阿賀野バイパス事業に係る、2007 (平成 19) 年度の事前の試掘調査で見つかった遺跡で、東西方向で約 570m にわたる大規模な遺跡です。阿賀野川や旧小里川によって形成された標高約 6 m の自然堤防上に立地しています。

現在の遺跡周辺は、昭和 2～6 年頃に行われた耕地整理によって水田地帯となっていますが、それ以前は畑地が広がっており、水田は一部であったことが、明治時代の土地更正図などから確認できます。水田は、地形が窪んだ部分のみで行われていたようです。今回公開する建物が多く見つかった地点は、その低地部から離れた場所にあることから、周辺よりも比較的高い場所を選んでいたことがわかります。

【基本層序】 山口遺跡全体を通して、I～VI層に大別されています。I層は表土層で、農道部分以外は水田耕作土になります。IV層が古代の遺物包含層になりますが、耕地整理によりほとんど残っていませんでした。よって今回公開する範囲には、中世と古代の遺構がありますが、ほとんどが同じ面 (VI層上面) で見つけています。



基本層序

2. 過去の調査

2008・2010 (平成 20・22) 年度に本調査が行われ、弥生時代、古代、中世などの遺構・遺物が見つかっています。遺物は、縄文時代 (晩期)、弥生時代 (前期～中期)、古代 (奈良・平安時代、8 世紀後半～9 世紀中葉)、中世 (鎌倉時代～室町時代、13 世紀後半～15 世紀前半) のものが出土していますが、主体となるのは、平安時代 (9 世紀前半) と中世 (13 世紀後半～14 世紀) になります。

特に注目できるのは、新潟県内では初例となる、唐三彩が出土していることです。これまでに壺? と玩具または女子俑と思われるものが見つかりました。唐三彩は、7 世紀末以降に遣唐使節に関係する人物によってもたらされたものと考えられています。



3. 今年度の調査

今年度は遺跡の中央部より東側、約 9,600 m² (延べ面積) を対象に調査しています。調査区が広いために、仮に A～C 区としました。A 区は 7 月中旬に調査を終了し、既に埋め戻されています。C 区は低地部にあたり、居住域に隣接した、水田や畑などの耕作痕跡 (畦畔・畝など) が見つかる可能性がありましたが、現段階までにそのような遺構を見つけることはできませんでした。

今回公開する遺構群は B 区にあり、山口遺跡において古代の集落の中心部分となります。

【遺物】 遺物包含層は、耕地整理などによって削られて、ほとんど失われていました。須恵器・土師器・灰釉陶器・金属製品などが出土しました。須恵器の杯類などの食膳具が最も多く、年代的には 9 世紀前半のものにほぼ限定されます。生産地としては、地元の五頭山麓古窯跡群産のものや、佐渡の小泊窯跡群産のものが中心です。また、中世の珠洲焼や縄文土器なども少量見つかっています。

【遺構】 掘立柱建物、井戸、土坑、溝などが見つかっています。遺物の出土状況などから、大半は古代の遺構で、中世の可能性がある遺構は、溝 (道状遺構含む) が中心となります。調査区を東西に縦断する溝 (SD2075) は、断面が漏斗状を呈し、上幅が 2 m を超す部分もある大型のものです。用水としての利用が主なものと考えますが、底面には所々深く落ち込む部分もあることから、他の用途も兼ねていたのかもしれませんが、残念ながら、詳しい時期を特定できる遺物は出土しませんでした。

今年度調査した井戸は、全て素掘りの井戸で、底面から面物なども見つかりません。土坑には、細片ですが土器が含まれるものが多く、完形に近いものもいくつか見つかりました。また SK4627 からは、おそらく同一個体である須恵器の甕の破片が、重なるようにして見つかりました。土器の表面が荒れていることから、新たに火を受けた可能性もあります。性格については不明です。

今年度は掘立柱建物を 16 棟検出していますが、今後も増える予定です。また、建物の軸方向からは大きく 3 分類できます。同一方向の建物は、同時期に建てられた可能性がありますが、柱を据えるために、柱より大きめに掘る部分を掘形 (掘方) といいます。この平面形が円形のもの 4 棟 (13SB5・11・12・16)、方形のものが 12 棟あります。そして、山口遺跡の特徴の一つとして、総柱型建物が多いことが挙げられます。一般的にこの時期の総柱型建物は、重いものを支えるのに適した構造であることから、倉庫的な機能が想定されています。柱根は 1 本も残っていませんでしたが、柱を据えた痕跡からは、直径 25cm を超す柱もあったことがわかります。



中世の溝 (SD2075) の断面



側溝を持つ道状の遺構



A 区 縄文時代 (晩期) の土器出土状況



古代の土坑 (SK4304) 出土状況



古代の土坑 (SK4627) 出土状況



方形の臺形を持つ柱 (P4750) の断面



掘立柱建物 (13SB13) 検出状況